

MSC スプレディダの横浜発着クルーズ(6)

事務局長 池田良穂

ウラジオストックを出港すると、1日の終日航海日の後、仙台に寄港してから横浜に戻る予定でした。そこに思わぬ障害が現われました。それが、台風13号で、船が仙台に寄港する頃には、関東に上陸してから北上して直撃の可能性もあるとのこと。クルーズ船に乗って、台風、ハリケーンとの接近は何度か体験しており、波の上での船体運動理論を専門とする筆者にとっては、まさに絶好の機会と期待していましたが、MSC スプレディダの船長の決断は早く、仙台寄港を取りやめて2日間の終日航海日とすることになりました。このお詫びに一人50ドルが、船上での支払いから割引されました。

船長が、どこで台風をやり過ぎて、横浜に向うのかが興味津々でしたが、その判断は、対馬海峡を抜けて九州を廻って横浜に向うという航路でした。航海速力は23ノットで予定通りの横浜帰着となるとのこと。横浜までの航路距離は1334海里と船内新聞には表示されていました。

台風の近くでの航海を期待した筆者にとってはちょっと残念ではありますが、最後の終日航海日は、台風を追う形での太平洋上の航海ですので、それなりの体験ができそうです。また、日本一周ルートになったことはちょっと嬉しいことでもあります。

まず、最初の終日航海日は、日本海を南下する航海で、静かな海を船は進みました。日本に近づく台風で、太平洋側の海は大荒れのはずですが、日本列島が防波堤代わりになっており、日本海はきわめて静かでした。夕方には対馬海峡を通過しました。

この夜は、本クルーズ中、2回目のフォーマル・ナイトで、ドレスコードはエレガントとなっていました。ダイニングルームでの夕食は、ガラディナーとなっていました。特に、目につくような目玉メニューはありませんでした。ただ、アペタイザーの日本食が「しめさば」となっていました。これはとっても美味しい一品でした。

夜遅くに部屋に戻ってAISをチェックすると、船はちょうど平戸沖を通過していました。左舷側に、イルミネーションを灯した「チャイニーズ・タイシャン」が北上していくのが見えました。

一晩あけると、船は九州南端を廻って太平洋を東に進んでいました。はるかかなたに、「さんふらわあ」の船体模様が見え、AISでチェックしてみると「さんふらわあきりしま」で、志布志に到着する直前のようなようでした。

9時頃には7m程度だった風が、10時を過ぎると15m程度にまで強まり、海面にも白波がみえて、船体にも斜め左舷前方からの波があたり、船内でもぐらぐらとした左右揺れが感じられるようになりました。テレビ情報によると台風は関東沿岸を時速15kmで北上しており、「MSC スプレディダ」は23ノット(時速約40km)で、追いかけるように東進していますので、時間とともに台風近づき、海上は少しずつ荒れてくるはずですが、

しかし、意外にも、時間がたつほど海はどんどん穏やかになっていきました。筆者には、ちょっと期待外れの状況です。この静かな海の航海は横浜まで変わりませんでした。

船上での最後のショーはなかなか迫力のあるもので、最後は乗客も一体となって盛り上がっていました。クルーズのラストインプレッションは、リピーターを増やすためにはもっとも重要なものですが、上手に構成されていました。

翌朝、東京湾の入口である浦賀水道に入る前に、コンテナ船と反航。その後、東京湾に向う船は一列縦隊に並んで東京湾へと航行します。MSC スプレディダの前方にはコンテナ船が、すぐ後ろには北海道航路の RoRo 貨物船が続いていました。やがて、東京湾に入ると MSC スプレディダは針路を左にとり、横浜港へと向かいました。港外には、数隻の貨物船が停泊していました。

大黒ふ頭の前で一転して、船首を港外に向けて停泊しました。

大黒ふ頭でのイミグレを終わり、荷物をとってからのアクセスとしては、桜木町への無料バスがでていました。一方、タクシー乗り場は長蛇の列で、しかもタクシーはなかなか来ません。灼熱の中を小一時間並んで、ようやくタクシーに乗って羽田空港に向い、予約していた関西空港の便になんとか乗ることができました。

実は、少し心配になって、下船前に船上からタクシー会社数社に予約の電話を入れたものの、「大黒ふ頭の客船バースというのがわからない」、「配車場所として設定されていないので行けない」など、どこもけんもほろろの対応でした。船のインフォメーションで聞くと「タクシーはたくさんいますよ」とのこと。この言葉を信じたのが間違いでした。やはり自助努力が必要なようです。



日本海を南下中に 2 回目のフォーマル・ナイトがあり、ショーも迫力のあるものでした。



夕食の後には、レストランのスタッフが勢ぞろいして挨拶がありました。



続いて、最近あまり見なくなったベイクト・アラスカのパレード。氷山にみたてたケーキです。



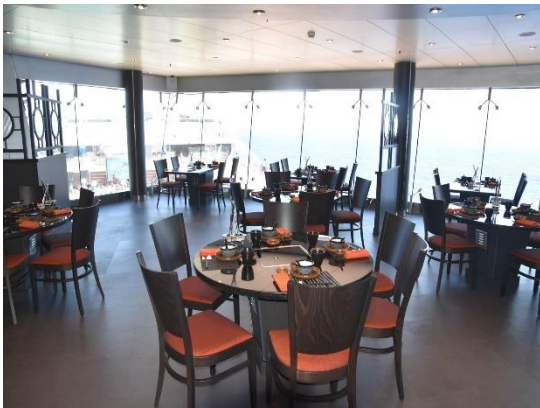
深夜、平戸沖で中国のクルーズ客船「チャイニーズ・タイシャン」と反航しました。



翌朝、船は太平洋を東に航海しました。午前中は、結構、風も波もあったのですが、次第に静かになっていきました。



出会う船も少なく、最後の終日航海日をゆっくりと船内で楽しむことができました。



昼食には、16階の見晴らしのよい有料レストランで、2回目のホットポッドを楽しみました。



最後の夜のショーは、エンターテイナー全員が出演し、フィナーレには、サービスにあたった船員も並んで喝采を浴びていました。クルーズのラストインプレッションをよくするために計算されたみごとなショーになっていました。

以下は、最終日に浦賀水道に入る直前から、部屋のベランダからのシップウォッチングの成果です!!



